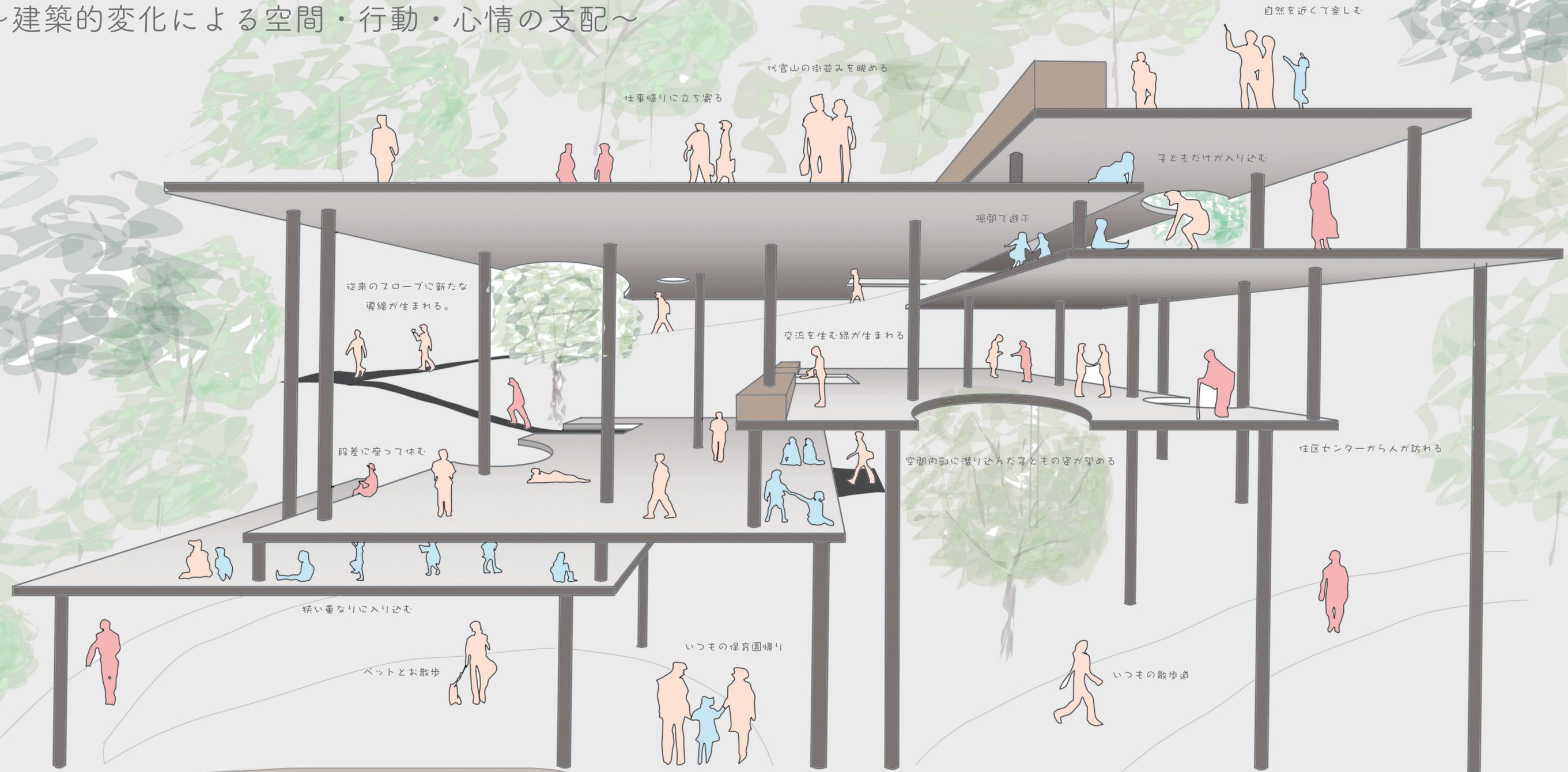


重なるの絡まり

～建築的变化による空間・行動・心情の支配～



01 Concept

「わたし」と「あなた」「ぼく」と「きみ」

視線の高さが異なることによってGLの見え方は千差万別である。

「わたし」と「わたしのペット」「わたし」と「わたしを囲む木々」

ヒトだけに限らず地球上に生きている動物、植物、全ての生命体によるGLの捉え方は異なる。

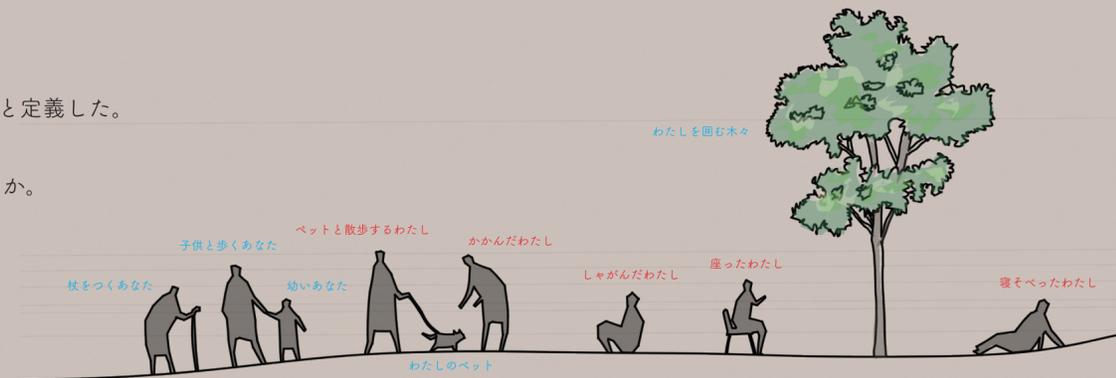
それに加えて「わたし」という一つの要素の中でも、立つ、かがむ、座る、しゃがむ、寝るといった様々な所作によってGLの捉え方が異なる。

そこで私は、GLを

常に変化し続けることと定義した。

何が変化をするのか。なぜ変化をするのか。どのように変化をするのか。

この常に変化し続けるという状態を設計へ落とし込む。



02 Site



西郷山公園敷地図

地図内の矢印は下記 03 Resarch によるもの

敷地は東京都目黒区代官山に位置する西郷山公園。
公園内は北東から南西にかけて標高差 10m の急勾配斜面が広がる。
斜面にはスロープが、斜面下には保育園と住区センターがある。

公園 保育園 住区センター

この3つのオブジェクトを繋ぎ結ぶ公園内の斜面。

私は斜面の建築的価値と建築的可能性から斜面のコミュニティ施設を創造する。



03 Resarch

① ② 現代の代官山の変化

通りに差し込む日光はビル群によって遮られ、
通り全体が暗く活気がないように感じた。
敷地までの道中に本来の代官山のイメージとは真逆
の暗い素っ気ない住宅街が広がっていた。

③ ④ 敷地の独自性とその可変性

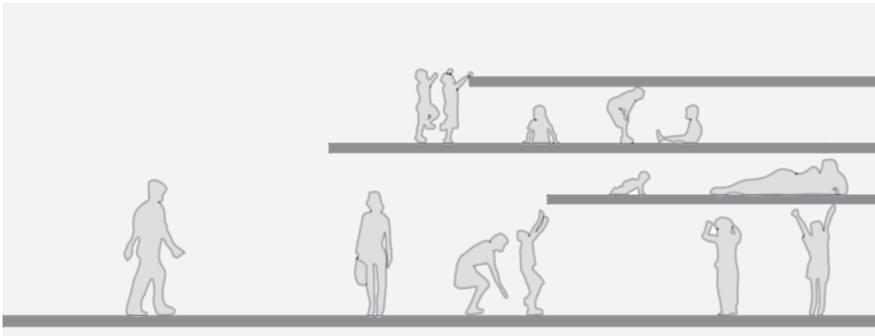
光を遮っていたビル群は消失し視界が開け、
遠くのビルや住宅街が眺望できるようになった。
人々は現代の代官山から逃避し光を求め、
「逃げ場」とし利用し生活しているように感じた。

⑤ ⑥ 敷地の持つ課題と未来

傾斜の小道によって、そこを歩く人のモノの
捉え方は常に変化している。
園庭は小規模なスペースでフェンスに囲まれ、
園児たちの行動を制限しているように思えた。

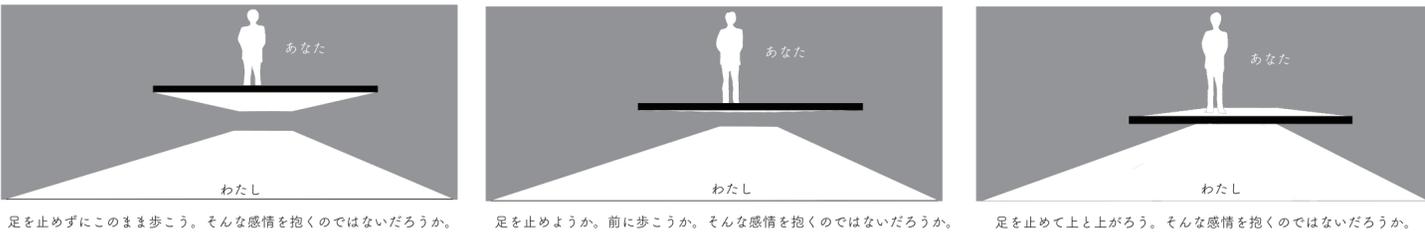
04 Proposing

スラブの鉛直変化による内部利用者の違い

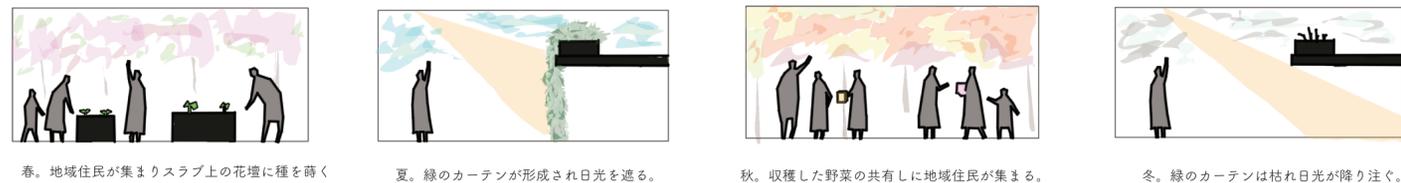


子どもは入れる。でも大人は入れない。
大人は見える。でも子どもは見えない。
スラブの鉛直変化によって空間の捉え方は変化する。
子どもと大人が絡み合うこの敷地に、
スラブを変化させることで空間を生み出し、
行動を制御できないだろうか。

あなたの立つスラブの鉛直変化によるわたしの心情の変化



四季の変化に対応する建築そのものの変化



05 Method



S = 1/1200

① 保育園に向けて斜面からスラブが伸びる

② 東にスラブが重なる
子どもが重なりに入る

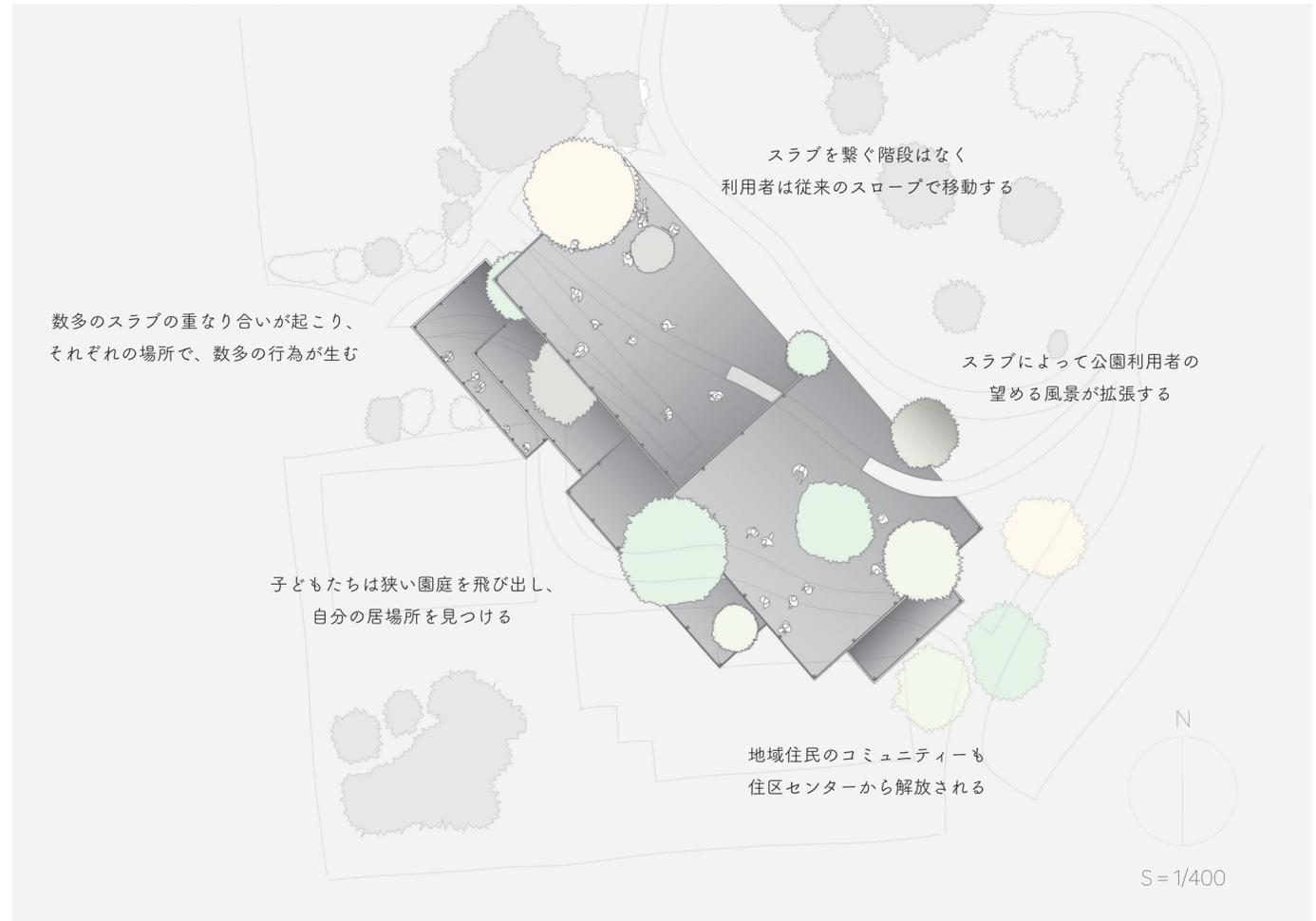
③ スラブが重なる
住区センターから人が訪れる



④ スラブが重なる
重なり人が集まる

⑤ 公園からスラブが伸びる
園内の人々が斜面を訪れる

⑥ もう一つスラブが伸びる
屋根が生まれ、人々が集まる



数多のスラブの重なり合いが起こり、
それぞれの場所で、数多の行為が生む

スラブを繋ぐ階段はなく
利用者は従来のスロープで移動する

スラブによって公園利用者の
望める風景が拡張する

子どもたちは狭い園庭を飛び出し、
自分の居場所を見つける

地域住民のコミュニティも
住区センターから解放される

S = 1/400